

山田家資料にみる北信濃の400年

～「真田丸」の時代を越えて、私たちの郷土はどう生きてきたのか～

旧山田家住宅は、平成20年に市に寄贈され、現在は（仮称）山田家資料館として一般公開しています。建造物のほかにも、江戸時代後期に作庭されたと考えられる庭園や、約1万4千点もの古文書をはじめとする歴史資料を収蔵し、その一部を展示しています。山田家に伝わる資料を読み解くと、山田家、また北信濃の人々が江戸時代以降をどう生き抜いてきたのかが見えてきます。



（仮称）山田家資料館
学芸員 山田正子

歴史年表にみる 山田家と中野市

- 慶長3（1598）年
 - ・豊臣秀吉が上杉景勝を会津（福島県）に移封。高梨氏をはじめ、北信濃の諸将もこれに従い会津へ移る。
- 慶長5（1600）年
 - ・関ヶ原の戦いで徳川方勝利。
- 慶長8（1603）年
 - ・徳川家康、江戸幕府を開く。
- 慶長19（1614）年
 - ・大坂冬の陣、東西両軍和睦。
- 元和元（1615）年
 - ・大坂夏の陣、豊臣氏滅ぶ。
- トピックス①**
山田家の江戸来住
- 寛永10（1633）年
 - ・幕府、鎖国令発布。
- トピックス②**
地主「山田庄左衛門家」の成り立ち
- 享保9（1724）年
 - ・幕府、高井郡内の幕府領諸陣屋を中野陣屋に統合。
- トピックス③**
地方文人「山田松齋」の活躍
- 弘化4（1847）年
 - ・善光寺地震発生。中野幕府領内の死者778人。
- 弘化5（1848）年
 - ・質蔵及び文庫蔵建築。
- トピックス④**
幕末維新期の山田庄左衛門家
- 幕末
 - ・隅蔵建築。
- 慶応3（1867）年
 - ・徳川慶喜、大政奉還。
- 明治3（1870）年
 - ・千曲川瀬直し工事（直流化）着工（明治5年完成）。
- 明治4（1871）年
 - ・中野県を長野県に改称する太政官布告。
- 明治13（1880）年
 - ・裏門・台所味噌蔵及び事務所、六間蔵及び二間蔵建築。
- トピックス⑤**
近代の山田家
- 明治中期
 - ・奥座敷、酒売場建築。
- 昭和28（1953）年
 - ・新座敷建築。

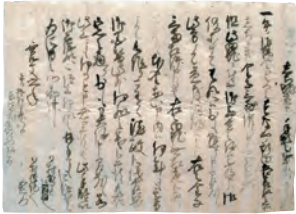
トピックス①
山田家の江戸来住
(1600年代前半)

山田家の先祖は戦国浪人といわれ、初代の縫殿介(生没年不詳)が江戸に来住したのは、元和年間(1615〜24)ころと伝えられています。

江戸時代の初めに当地を支配した飯山藩主・堀直寄は、戦国浪人を優遇して積極的に迎え入れ、千曲川沖積地などの荒地や未開墾地の開発を奨励しました。山田家はこのころに一族や抱えの人々と共に、江戸に来住したのと思われれます。

トピックス②
地主「山田庄左衛門家」の成り立ち
(1600年代後半〜1700年代前半)

3代目が初めて「庄左衛門」を名乗ります(山田庄左衛門家の創設)。土地の移動状況を示す質地証文は、寛文6(1666)年が初出で、元禄年間(1688〜1704)にか



▲寛文6年の質地証文

けて大量の田畑を買い入れ、土地の集積を進めました。また、周辺藩領の年貢地払い米を買い入れて、穀物売買や酒造業を営みました。
享保年間(1716

〜36)ころまでには、さまざまな経営帳簿を作成するようになり、山田家による地主経営が本格化していきます。現在地に屋敷を構えたのも享保年間です。

トピックス③
地方文人「山田松齋」の活躍
(1700年代後半〜1800年代前半)

明和6(1769)年に生まれ、天保11(1840)年に72歳で没した7代庄左衛門顕孝は、文人「山田松齋」として知られています。

信州中野の畔上聖誕、山岸蘭陽らと江戸の儒者・亀田鵬齋に師事し、柏木如亭、頼山陽らとも交友しました。七絃琴を嗜み、「経典穀名考」などの著作を残し、地域の門人たちに講義しました。

▼経典穀名考



また、旅日記「宝善堂記行」「参宮紀行」からは、江戸や京都の文人たちとの人脈が見えてきます。

トピックス④
幕末維新期の山田庄左衛門家
(1800年代半ば)

山田庄左衛門家の土地集積はさらに進み、嘉永3(1850)年の小作地は19か村、862石に及びます。

天明5(1785)年からは中野代官所との金融取引が始まり、幕末には中野代官所の掛屋として年貢金の運用を任せられました。一方、千曲川沖積地に広がる耕地は水害常襲地帯だったため、9代、11代庄左衛門は、篠田市左衛門、丸山要左衛門らと千曲川の築堤や瀬直し(直流化)の実現に奔走します。

トピックス⑤
近代の山田家
(1800年代後半〜1900年代前半)

中野県から長野県へと移り変わ

るなか、山田家は第19大区区长などの役職を歴任し、12代荘左衛門(1851〜1917)は貴族院議員・衆議院議員などを務めました。明治期における山田家の経済活動は、地域の土地集積から横浜生糸貿易・証券投資・銀行経営などに向かつていきます。12代荘左衛門の弟・松三郎(1856〜1933)は、横浜生糸合名会社の役員として生糸貿易に携わり、分家の山田亀吉(?〜1928)が経営する江部製糸場の生糸も横浜から海外に輸出されました。



▲江部製糸場に関する資料

(仮称) 山田家資料館



住所／中野市大字江部 46 番地 3
TEL／0269-23-2955
開館時間／午前9時〜午後5時
休館日／土・日・祝日・年末年始
入館料／無料

※見学をご希望の際は、上記までご連絡ください。